

又ゼネストの氣運を劇々に、高めることも出来るのだ。

(一)我々は、全国的に、地方的に、産業別的に、あらゆる機會に、あらゆる問題をとらへて、工代運動を進展せしむべきである。産業別の工代を計畫することは特に重要だ。

(二)更らに我々は、ゼネストの宣傳、煽動を猛烈に敢行する必要があるが、そのためには、先づ、産業別の行動綱領を作製し、各産業別の中心スローガンを決定して、それをあらゆる機會に、各工場の大衆に、アジ、プロせねばならぬ(出来れば、産業別新聞を刊行するやうにすることだ)

(三)その際我々のアジプロの結語は「労働者はゼネストをもつて立て！」といふやうな抽象的なものでなく「ゼネストを準備するためのこれ／＼の工代に参加しろ！」でなければならぬ。そして、一地方的な部分的な工代でもいいから、それが開催されたら、その事實を全國の大衆へ猛烈にアジ、プロすることが必要だ。不斷にゼネストへの工代會議を組織しつつ、工場大衆に、それへの参加を煽動するのでなければ、我々の煽動はからアジに終る。

(四)かゝる運動が、我々の、大工場への分會組織確立の運動と並行して、いくらかづつでも進展して来れば、やがて方では、眞實にゼネストを擁護することは出来ないが、さうした不斷の活動こそが、やがて、計畫的ゼネストを、巻き起すための強力な拍車になるのだ。

(カ)「計畫されたるゼネストへ全工場の闘争を統一せよ！」これが我々のゼネストに對する根本の方針でなければならぬが、それは、この「計畫されたるゼネスト」が眞實に計畫されるようになり、全工場の大衆の前へ、ハッキリと、現實的計畫として示されるようになったときに、始めて、現實的なものとなるのだ。かつて、アメリカの労働者が八時間労働獲得のためのゼネストを計畫したときには、三年も前から、その計畫が發表され、數度の全國的會議ももたれて、全労働者に對して、執拗なアジ、プロが爲されたが、それだけの根強さと遠大な計畫とがなければ、ゼネストは、結局、かけ聲に終る。

(コ)最早や我々は、いつまで「ゼネストをもつて起て！」の抽象的アジ、プロで満足してゐるべき時ではない。現實に「計畫されたるゼネスト」を計畫するために、全努力をあらゆる準備活動に、傾倒すべきである。

(ク)ゼネストの準備活動に關しては、右の根本方針に基

同一産業の全工場の大衆が、一齊に、同一要求をひつぎけて、工代會議を開催し、ゼネストを擁護せよやうになる。かくなつてこそ、我々のストライキは、初めて、敵を恐怖せしめるに至るのである。それまでの一つ一つの工場のストライキは、すべて、ゼネストへの拍車になるやうに導かれなければならない。

(フ)一工場にまさにストライキが、勃發せんとしてゐるときは「ゼネストが組織されるまで、ストライキを敢行するのを待て！」などとは言つてゐられないが、さうした場合には、我々は直ちに工代の開催を計畫し、必ず地方的にでも、ゼネストの計畫を樹て、全大衆にアジ、プロする必要がある。もしその目的を實現することが出来ずに、愈々一工場だけで、争議を開始せざるを得なくなつた場合にも、なほ争議繼續中、執拗にゼネストへの計畫を進める必要がある。無論それは、争議の起つた工場の分會だけの仕事ではなく、同一産業組合に屬する全組合員が、協力して敢行しなければならないことだ、といふことは言ふまでもないことだ。

(ワ)無論さうした「一工場の争議をゼネストへ」式のやり

き、更に、より詳細な、より具體的な方針書を、新中央執行委員會をして、作製せしめる必要がある。

### 三、ストライキの準備活動

#### A 準備活動の重要性

(イ)ゼネラル・ストライキを敢行するための準備活動に關しては既に述べた。茲には、ゼネストが敢行されるに至るまでの個々の、一工場のストライキの場合の準備活動に關する方針を述べる。

(ロ)個々の工場のストライキに於ても、眞實の準備活動は、ストライキが始まりさうになつてから、大急ぎでやつたのでは、とても間に合はない。平生のガツチリした組織活動こそ、ストライキの最も重要な準備活動だといふことを、しつかりのみこんでおくことが第一に必要だ。

(ハ)例へば、平生、戰闘的工場委員會の運動がうまく進展してゐれば、ストライキの場合に、スト委員會を編成することなんかお茶の子だし、又、平生充分に工場調査が出来てゐれば、適確なストライキ戦略をたてることも容易であ